

# 平成 20 年度町村議会表彰候補 審査結果報告

平成 21 年 1 月 13 日

全国町村議会議長会

会 長 原 伸 一 様

町村議会表彰審査会

委員長 佐 藤 竺

本審査会は慎重審査の結果、平成 20 年度町村議会特別表彰候補として下記 3 町村議会および町村議会表彰候補として下記 33 町村議会をそれぞれ選定しましたので報告いたします。

## 記

### I 表彰候補町村議会名

#### 1. 町村議会特別表彰候補

北海道白老町 宮城県本吉町 沖縄県読谷村

#### 2. 町村議会表彰候補

青森県外ヶ浜町 宮城県柴田町 秋田県小坂町 福島県会津美里町 飯舘村 茨城県阿見町 栃木県壬生町 群馬県昭和村 埼玉県ときがわ町 白岡町 東京都御蔵島村 神奈川県愛川町 山梨県身延町 富山県朝日町 石川県穴水町 長野県軽井沢町 辰野町 飯島町 豊丘村 三重県東員町 大阪府熊取町 奈良県王寺町 和歌山県太地町 岡山県鏡野町 山口県周防大島町 徳島県佐那河内村 香川県綾川町 愛媛県砥部町 高知県大豊町 福岡県鞍手町 那珂川町 熊本県美里町 宮崎県諸塚村

### II 審査経過

本審査会は、昨年度、新たな表彰制度のもと、町村議会表彰の審査を行い、特別表彰候補として 4 町村議会、町村議会表彰候補として 36 町村議会を選定した。今年度も昨年度に引き続き(1)住民にみえる議会、(2)議会本来の役割を積極的に果たしている議会の二つの重点項目による別紙の表彰審査方針を決定、これに基づき全国 47 都道府県の町村議長会に候補の推薦を依頼した。その結果 29 都道府県町村議会議長会から計 36 の候補の推薦があり、これを本審査会で検討、全てを表彰候補とすることとし、さらに特別表彰候補として 3 町村議会を選定した。

全体としては、審査方針(1)のうち議会広報の充実、議会の実況中継、議会のホームページ開設などは多くの町村に見られるようになったが、委員会の完全公開の実施や休日・夜間議会の開催は少ない。住民との直接対話を目的とした住民懇談会・議会報告会の開催は昨年度

よりは増えてきたが、全国的な取組みにはまだ至っていない。

また、審査方針(2)のうち一問一答方式・対面式の採用、議員研修の充実などはかなり普及しているが、専門的知見・公聴会の活用例はほとんどなく、参考人の活用や地方自治法第96条第2項の条例による議決事件追加、あるいは政策形成能力や行政監督能力充実のための議員同士の自由討論の実施などは事例が乏しい。

ちなみにこれら(1)と(2)で議会の活性化が図られている所では議員や委員会の条例案・意見書・決議の提出数が多くなっているのがうかがわれる。したがって、とりわけ特別表彰の審査では共通の特色に加えてさらに他と違ったユニークな取組みをしているところに注目した。

### Ⅲ 特別表彰候補選定理由

#### ○北海道白老町

白老町は、質問、質疑の一問一答方式・対面式の採用、インターネットによる議会中継、議会ホームページの開設など他と共通の工夫のほか、閉会中の期間をなくし、議会が主導的・機動的に活動できることを目的とした全国初の通年議会の導入(平成20年6月から)、議会懇談会の実施、各地域で委員会を開催する移動常任委員会の実施、本会議・委員会の夜間開催(本会議延2日、委員会延2日)、参考人制度の活用(年3件・6人)、議会傍聴規則を見直し、傍聴禁止制限を撤廃、手続きは不要(写真・ビデオ・録音は自由)とし、委員会を本会議同様に完全公開とするなど多彩な取組みが見られ、現在は第3次の議会改革を推進中である。

#### ○宮城県本吉町

本吉町は、議会報告会や出前議会開催の先駆的な議会として、他市町村からも多くの視察が訪れている。質問、質疑の一問一答方式・対面式の採用、議会ホームページの開設、議員研修の充実など他と共通の工夫のほか、議員相互間の自由討議の実施、夜間議会の開催(延2日)、参考人制度の活用(年1件・2人)、法第96条第2項の条例による議決事件に基本計画など8項目を追加するなど積極的に議会の活性化に取り組んでいる。

#### ○沖縄県読谷村

読谷村は、質問の一問一答方式・対面式の採用、議員研修の充実など他と共通の工夫のほか、出前議会・地域懇談会の開催、活発な委員会提出議案(年42件)、参考人制度の活用(年4件・9人)、活発な質問(1定例会あたり平均質問者数延17人)、質問の際に、執行部側からも事前に答弁書を受け取ることで審議の充実を図る、庁舎内モニターによる議会実況中継と広報無線により議会日程や一般質問の内容を事前広報するなど意欲的な取組みが行われている。

これら3議会の活動は、他町村の議会活性化への取組みにも刺激を与え、他に範となるところが大きいと高く評価できる。